



滋賀県立特別支援学校技能検定「しがごと検定」



「しがごと検定」は、県立特別支援学校高等部（分教室、高等養護学校含む）の生徒を対象とした技能検定です。

この検定は、学校が協力企業等と連携して開発した評価基準に基づき実施するもので、運搬陳列、清掃メンテナンス、接客、事務補助の4種目があります。生徒に求める技能や態度に応じて評価級（1～10級）を認定します。

検定は年2回実施することとしており、各学校では検定に向けて具体的な目標をもってさまざまな学習に取り組んでいます。

検定当日には、その道のプロである協力企業のみなさまから助言をいただけるほか、検定前には就労に対する意欲や興味関心をさらに高めることを目的にプロから直接指導を受けることができるスキルアップ授業も実施しています。

運搬陳列

飲料水の賞味期限をチェックしながらきれいに陳列したり、補充したりします。お客様からの質問への対応もします。

清掃メンテナンス

部屋に見立てた枠内の机や床を様々な掃除用具を使って決められた手順どおりに掃除します。

接客

喫茶店に見立てた会場でお客様の接客をします。注文を聞いて、飲み物を提供します。お客様に喜ばれる接客を心がけます。

事務補助

社内メール便の仕分けをします。重要な文書を仕分けて、決められた宛先の封筒に入れて封をします。

平成28年度から本格実施している「しがごと検定」は、今年度で10年目を迎え、これまでに延べ2,934名の生徒が受検しました。



運搬陳列



事務補助



今後も生徒の社会的・職業的自立に向けて、生徒の持てる力を伸ばす検定となるよう取組を続けていきます。

問合せ先 特別支援教育課 ☎077-528-4643



知っているようで知らない

子どものころとからだ



摂食障害

- ☐ 急激に体重が減少する
- ☐ 体重増加を極端に怖がる
- ☐ やせたり太ったりする
- ☐ 食べる量が減る
- ☐ 食べ過ぎた後に絶食するなど

これらは「摂食障害」のサインのひとつです。ただし、本人には自覚がなかったり、摂食障害であることが認められなかったりすることもあります。

摂食障害は、こころとからだの両面に影響を及ぼすため、早期発見・早期対応が大切です。



他にも、周囲の友達や大人になかなか理解してもらえない症状で困っている子どももいます。

困っていることや心の不調を言葉にできなくても、行動でSOSを出すこともあります！

- *ぼんやりしていることが多くなった
- *イライラして怒りっぽくなった
- *無口になった、元気がない。など



気になることがありましたら、学校の先生やスクールカウンセラーなどに相談してください。

問合せ先 保健体育課 ☎077-528-4614

プレコンセプションケア



適正体重

栄養不足による若い女性のやせ（BMI18.5未満）は、貧血や骨粗鬆症の原因になります。一方、栄養過多や太り過ぎ（BMI25以上）は、将来、糖尿病や高血圧などさまざまな病気のリスクを高めます。やせも肥満も不妊や妊娠・出産のリスクを高めます。男性の肥満も不妊のリスクを高める報告があり注意が必要です。家族で、BMIを計算して、確認してみましょう。

プレコンちゃん

BMI = $\frac{\text{体重} \text{ kg}}{\text{身長} \text{ m} \times \text{身長} \text{ m}}$



滋賀「プレコン」チャンネル

プレコンセプションケアとは、「若い男女が将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うこと。次世代を担う子どもの健康にもつながるとして近年注目されているヘルスケアです。」



25以上	太っている
18.5～24.9 (理想値は22)	標準の範囲
18.5未満	やせている

問合せ先 子育て支援課 ☎077-528-3567

過去のシリーズ人権教育は、

いちいちをくまなく読んで。



あれから三十年程が経ちました。当時と比べると、建物や交通機関など、社会のいろいろな場所で年齢や身体状況に関わらず、誰もが使いやすい施設や設備の設置が進んでいました。先日、ボランティアで参加した障害者スポーツ大会でも、出場選手との会話の中で、「施設もだけど、困っていると誰かしら声をかけてもらうことが多くなってきた。外に出かけることがおっくうでなくなってきた。」と話されていたのが心に残っています。兄の願いが着実に実現してきていると、嬉しく感じています。兄の願いが着実に実現している今では、兄は電動車椅子を操作し、三人で出かけています。

これからも、兄と共に、バリアのない社会づくりに携わっていきこうと思っています。

ある日、地域のお祭りに出かけました。「車椅子、押してもいいかな。」心配もありましたが思い切って母と兄に伝え、私が車椅子を押すことになりました。お祭りは、賑やかな雰囲気でも三人とも大喜びでしたが、人混みで狭い通路があり車椅子を前に進めるには思ったより大変でした。何人かに声をかけ道を開けてもらうように伝えましたが、返事はなく皆祭りに夢中で、なかなか道を開けてもらえません。そんな状況に腹が立ち、うんざりしました。

帰宅後、母に「人が多くて困ったよ。」と伝えました。「そうだね。大変だったね。」と母が私をなだめてくれると、横で聞いていた兄が、「心のバリアフリー」という言葉を学校の学習で習ったんだ。互いに知り合うことが、少しずつバリアをなくしていくんだって。」と言いました。続けて、「だから、障害のある自分の姿を多くの人に見てもらって、障害のある人もない人も当たり前に暮らす社会になってほしいと思うんだ。」と私と母に伝えてくれました。そんな兄の言葉もあって、その後も、変わらず三人で出かけています。

外出が好きな兄の誘いで、私が小学生の頃は、休日に母と兄と私でよく出かけていました。四つ上で中学生の兄は、肢体不自由があり移動には車椅子が必要です。

普段は、車椅子を押す母の横を歩くことが多かったのですが、ある日、兄から「僕の車椅子を押してみない？」と勧められました。兄や母からは、「気をつけて車椅子を押すんだよ。」と聞いていたもので、慎重に進めたつもりだったのですが、兄には速く感じられたようで、「もう少しゆっくり頼むよ。」と言われ、「ごめん。怖かったね。」と答えると、「少しずつ慣れていけば大丈夫だよ。」と優しく声をかけてもらいました。ふがいなく感じましたが、それでも、三人で学校のことや勉強のことなどを話しながら出かけることがすごく楽しかったです。

シリーズ
人権教育

「兄と出かけること」



外国人児童生徒いきいきサポート支援事業

本県の公立小・中学校および義務教育学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒数は、令和7年5月1日現在、1,780名（令和6年5月1日現在では、1,696名）と、年々増加傾向にあります。そのような状況に対応するために、本事業では、申請のあった学校に母語が話せる支援員（中国語1名、タガログ語1名、ベトナム語1名、スペイン語2名）を派遣し、次のような教育支援を行っています。

支援の内容 学習支援、児童生徒の相談の対応、懇談の通訳
保護者の支援、保護者宛文書・通知表などの翻訳

派遣を受けた学校からの報告

- 児童が母語で話すことの安心感がとても大きく、心の中に抱えている思いや悩みを支援員さんに話すことができました。（小学校）
- 支援員さんに進路に関する懇談に同席してもらい、支援対象生徒と保護者、担任で卒業後の進路について共通理解を図ることができました。（中学校）

問合せ先 幼小中教育課 077-528-4665

広告

お客様の夢を
JAが応援します！

入学金・授業料・学費・下宿代など、
教育に関する資金に

JA教育ローン

キャンペーン実施中！

募集期間 令和7年 10.1水 >>> 令和8年 4.30木

農業者以外の方もご利用いただけます。
「JAとのお取引はこれから」というお客さまも安心してご相談ください！

JA教育ローンならインターネットで簡単審査！

ネットからJA教育ローンの事前審査のお申し込みをご希望される方は「JAネットローン」で検索！ JAネットローン 検索

※店頭に説明書をご用意しております。※店頭にて返済額の試算を承っております。
くわしくは、お近くのJA窓口にお気軽にお問い合わせください。



JAバンク滋賀

JAバンク滋賀

検索



カード型教育ローンもあります！
詳しくはホームページで！

こちらは広告です。掲載内容は、本誌が推奨するものではなく、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。